

I 基本集計

主要項目の月次・年次時系列表を見る上での注意

1. 月別結果のうち2012年以前の数値については、労働力調査長期時系列データを参照されたい。
<<https://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/03roudou.html>>
2. 「年」, 「年度」欄に「*」印を付してある結果数値には、沖縄県分は含まれていない。沖縄の本土復帰により、1972年7月以降、沖縄県も調査の範囲に含まれた。
3. 1977年以前の数値は、時系列接続用数値（1961年及び1967年の調査改正に伴う時系列上の断層補正並びに1975年国勢調査の確定人口による補正を行ったもの）である。このため、1977年以前の数値は、各年の報告書の数値とは異なる。
4. 労働力調査では、2011年3月11日に発生した東日本大震災の影響により、岩手県、宮城県及び福島県において調査実施が一時困難となった。これに伴い、2011年の<>内の数値は補完的に推計した値を掲載している。
5. 2017年1月分結果から、算出の基礎となるベンチマーク人口を、2010年国勢調査結果を基準とする推計人口から、2015年国勢調査結果を基準とする推計人口に切り替えた*。これに伴い、2010年10月から2016年12月までの期間を含む数値については、比率を除き、2015年国勢調査基準のベンチマーク人口に基づいて遡及又は補正した時系列接続用数値に置き換えて掲載した。また、2005年10月から2010年9月までの期間を含む数値については、2010年国勢調査基準のベンチマーク人口に基づく時系列接続用数値を掲載している。このため、当該期間を含む数値は、各年の報告書の数値及び統計表やe-Stat上のデータベースの数値とは異なる。
※この切替えによる変動（ギャップ）は、全国の15歳以上人口（2015年9月分結果）で+35万人（2015年基準-2010年基準）となっている。
6. 季節調整の方法は、X-12-ARIMA（主要系列を除く系列はX-11デフォルト）管理限界 $9.8\sigma \sim 9.9\sigma$ による。詳細は、「付3 標本抽出方法、結果の推定方法及び推定値の標本誤差」を参照されたい。
7. 季節調整値については、新たに2017年1～12月の結果を追加して再計算されている。また、この際、2015年国勢調査の確定人口に基づく推計人口（2015年基準）によって遡及ないし補正を行った時系列接続用数値を原数値に相当する入力データとして用いた。このため、ここに掲げた季節調整値は、2016年の報告書に掲載した季節調整値から一部改定されている。なお、2011年3月から8月までは、東日本大震災の影響により全国集計結果が存在しないため、補完推計値を原数値に相当する入力データとして用いた。
8. 2018年の季節指数は、2017年12月までの結果から計算した推計季節指数を掲載している。